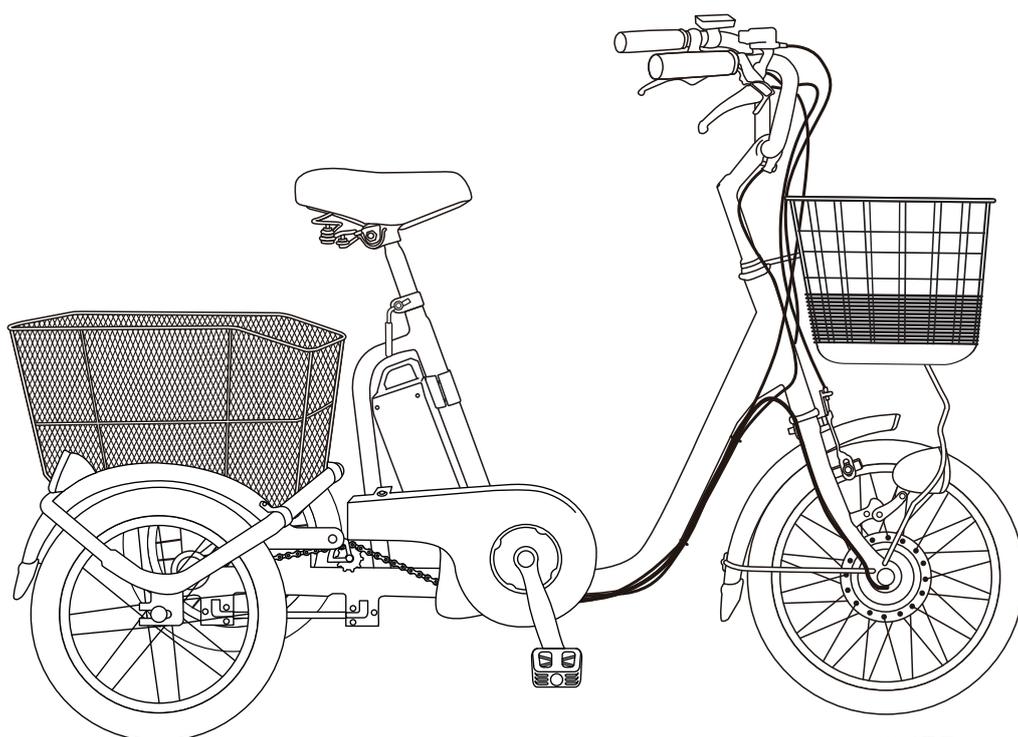


必ず保管してください

電動アシスト三輪自転車 取扱説明書

快適、安全にご利用いただくため、ご使用前に必ずお読みください



※イラストはイメージです

この度は電動アシスト三輪自転車をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。品質、性能の向上およびその他の事情により、記載されている仕様ならびに装備において、予告なく変更する場合があります。

三輪自転車は構造上、二輪自転車とは乗車感覚がまったく異なります。三輪自転車の特性を十分にご理解いただいたうえでご使用いただくようお願いいたします。詳しい三輪自転車の特性、乗車時の注意事項については2ページ、22ページをご確認ください。また、本自転車は日常生活用として設計されています。業務用としてはお使いにならないでください。

ご不明な点等ございましたら、お電話またはメールで問い合わせください。

もくじ

<u>はじめに</u> 2	<u>お乗りになる前の点検と調整</u> . . 20~21
<u>三輪自転車の走行特性</u> 2	- 各部の点検
<u>電動アシストの特長</u> 3	- 乗車時の服装
- 走行できる距離の目安	- ブレーキレバーの引きしろ調整
- 充電時間の目安	<u>乗り方と注意</u> 22
<u>各部の名称</u> 4	<u>お手入れと保管</u> 23
<u>付属品</u> 4	- 注油箇所
<u>安全上のご注意</u> 5~9	- お手入れ
- 自転車	- 保管
- バッテリー、充電器	<u>交通ルールについて</u> 24~26
<u>各部の組み立てと調整</u> 10~12	<u>故障かな？と思ったら</u> 27~28
- ハンドル	- 三輪自転車について
- サドル	- バッテリー、充電器について
<u>各部の操作</u> 13~14	<u>こんなときどうする？</u> 29
- ブレーキ操作	- 転倒したとき
- パーキングロック機能	- 交通事故
- 自転車の施錠	- パンクしたら
- スイング機能	- 異常を感じたとき
<u>電動アシスト機能の操作</u> 15~16	- ブレーキの故障
- 電源操作	- 廃棄する場合
- アシストモードの切り替え	<u>防犯登録について</u> 30
- ライトのつけ消し	- 登録手続きに必要なもの
- バッテリーの残量表示	- 車体番号の刻印位置
<u>バッテリーの取り扱い</u> 17~19	<u>TSマークについて</u> 30
- バッテリーの充電	<u>点検、整備チェックリスト</u> . . . 31
- 自転車への取り付け	<u>品質保証規定</u> 32~33
- 自転車からの取り外し	
- バッテリーの特性	
- バッテリーの保管	
- 買い替え目安	
- 別売品	
- バッテリーの廃棄	

はじめに

- ご購入後の初期点検および定期点検は必ず実施してください。
- この説明書には、ご購入いただいた自転車にあてはまらない説明も含まれています。
- 防犯登録については30ページをご参照ください。
- 自治体によっては保険の加入が義務付けられています。自治体の指示に従ってください。
- 自転車が常に完全な状態であるようお心掛けください。整備や故障、修理などで部品を交換される場合はサポートセンターまたはお近くの自転車店にご相談ください。
- この自転車の取扱・点検・調整などについて不明な点はサポートセンターまたはお近くの自転車店にご相談ください。
- 読んだ後は大切に保管して必要に応じてご利用ください。(販売の証明となる伝票や、運送会社の送り状控えなども一緒に保管してください。)
- 自転車を他人に譲る場合は、取扱説明書と保証書を一緒にお渡しください。

三輪自転車の走行特性について

三輪自転車は構造上、二輪自転車とは乗車感覚がまったく異なります。以下の注意事項をご確認のうえ、安全な場所で十分に練習を行ってからご使用いただくようお願いいたします。

- 三輪自転車であっても二輪自転車と同じようにバランスをとる必要があります。
- 二輪自転車より安定感を感じられるかと思いますが、バランスを崩すと転倒する危険性があります。バランスを崩したときに備えて、乗車したときに地面に足がしっかり着くことをご確認ください。
- ご購入いただいた自転車にはスイング機構が備わっており、ハンドルの右側に装着しているレバーでスイング機構の切り替えができます。走行するときは必ずレバーを『走行時』に切り替えてご使用ください。
- スイング機構を固定したまま乗車されると、カーブするとき、傾斜している道を通るとき、段差や障害物に乗り上げるときにバランスを崩し転倒する危険性があります。
- 足が後車輪に巻き込まれないよう注意してください。発進時は地面に着いた足を速やかにペダルに乗せてください。
- 三輪自転車は車体後部の車幅が広がっています。歩行者や障害物などに接触しないよう注意して、低速走行を心がけてください。
- 危険を感じたときには無理をせずに自転車から降り、押して歩きましょう。

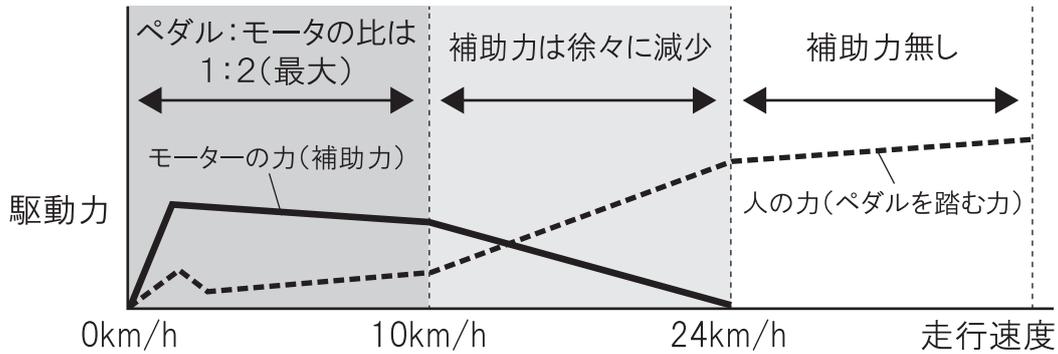
電動アシストの特長について

ご購入いただいた三輪自転車は、電動アシスト(補助)機能がついた三輪自転車です。電動アシストの機能を十分にご理解いただきご使用ください。

電動アシストとは

ペダルを踏む力をセンサーが感知して、踏む力に応じてモーターの力を加え、走行を補助する機能です。モーターの力はペダルを踏む力、走行速度によって変動します。

電動アシストによる補助のイメージ



※次のようなときは電動アシスト機能は働きません

- ・ ペダルを踏み込んでいないとき。
- ・ ペダルの回転を止めているとき。
- ・ 速度が24km/h以上のとき。
※速度が24km/h以下であっても、平地などのペダルへの負荷が少ない道路では電動アシスト機能が働かない場合があります。
- ・ バッテリーの残量が無くなったとき。
※バッテリーの残量が無くなると電動アシスト機能は働きませんが、普通の自転車として走行はできます。

走行できる距離の目安(1充電あたり)

低モード	中モード	高モード
約30km	約25km	約20km

※各モードの切替については15ページをご確認ください。

自社実走行試験による目安の距離になります。

走行試験条件:新品バッテリー、平坦な道での走行、温度25℃、無風状態

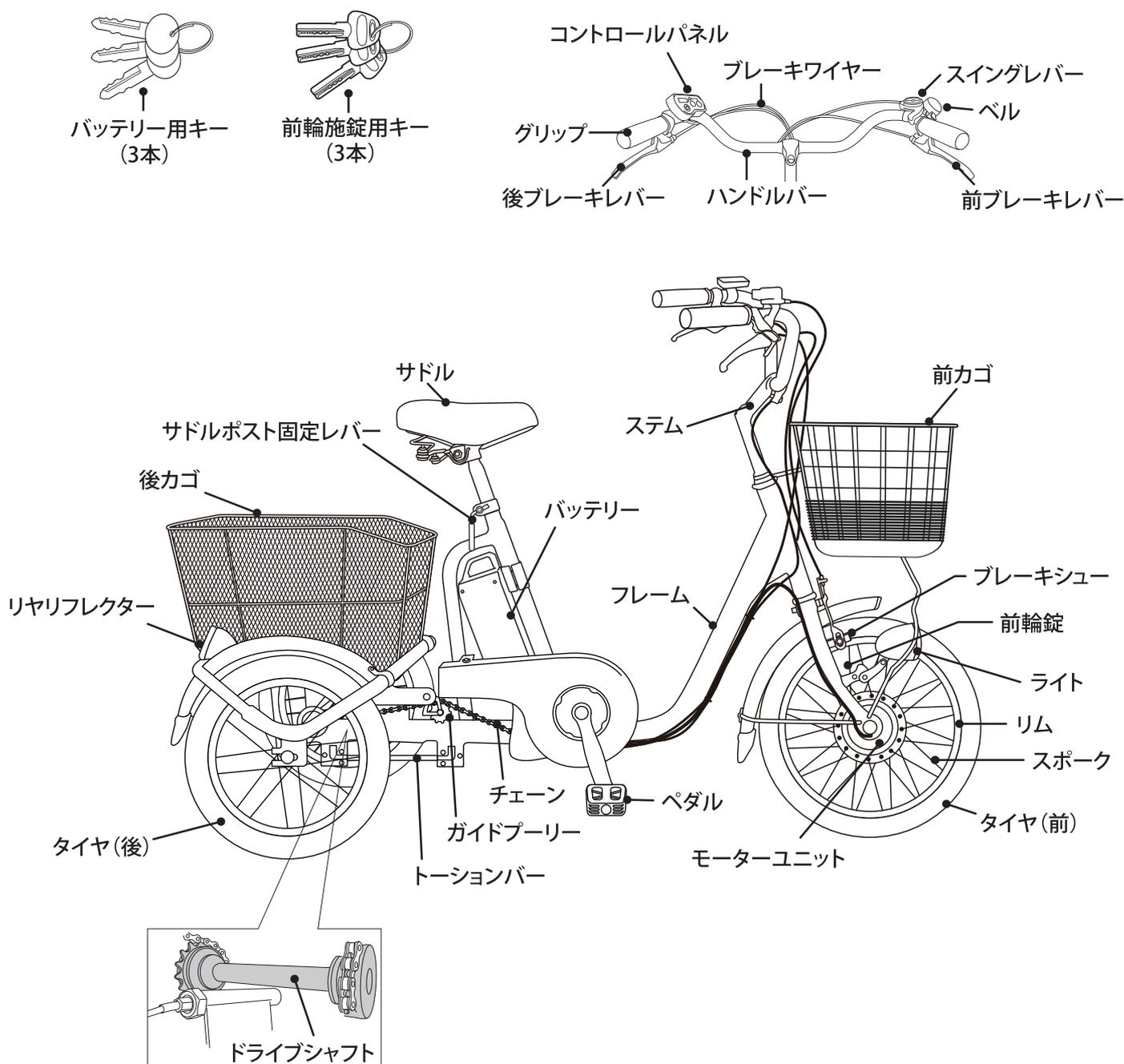
タイヤ側面に記載の標準空気圧、車載重量65kg(乗員および荷物を合計した質量)

- ・ 走りかた、道路状況、気候などにより1回の充電で走行できる距離は変わります。とくに整備状態(タイヤの空気圧等)、積載質量の増加や上り坂が多い道を走行した場合は走行できる距離が短くなります。
- ・ バッテリーの特性上、冬季は走行できる距離が短くなります。
- ・ バッテリーの特性上、充電回数の増加にしたがい1回の充電で走行できる距離が短くなります。
- ・ 走行距離はあくまでも目安です。1回の充電による走行距離を保証するものではありません。

充電時間の目安 …… 約3時間30分

- ・ バッテリー本体の残量表示ランプが1つになってから充電したときの時間です。
- ・ 充電前のバッテリーの状態、充電環境温度などにより変わります。
- ・ ご購入後はじめての充電は多少充電時間が長くなることがあります。
- ・ 充電方法については、17ページの説明をご確認ください。

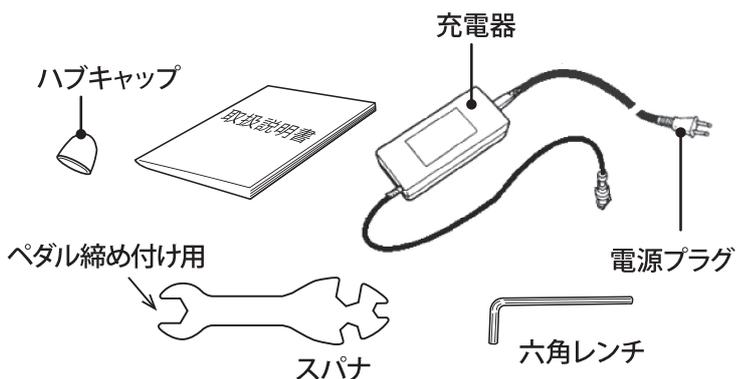
各部の名称



付属品

三輪自転車本体のほかに下記のものすべて揃っていることをご確認ください。

- 取扱説明書 兼保証書 (本書)
- 充電器
- 簡易工具 2点 (スパナ、六角レンチ)
- ハブキャップ



安全上のご注意

- 電動アシスト三輪自転車は普通の自転車とは異なる部分があります。
- ご使用の前に必ず次の『警告事項、注意事項』をよくお読みいただき、正しくお使いください。
- ご使用にあたっては、はじめに安全な場所で十分に練習を行ってください。
- 注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度に応じて次の区分で表示しています。

 警告	取扱を誤ったときに、使用者が死亡もしくは重傷を負う危険性が想定されるもの。
 注意	取扱を誤ったときに、使用者が傷害を負う危険が想定されるとき及び物的損害のみの発生が想定されるもの。
 禁止	危険の程度とは関係なく道路交通法で禁止されている行為。誤ると思わぬ事故、けがを負う危険が予知されるもの。
 強制	使用者に必ず実行していただきたいこと。



警告事項（自転車）

点検を行うこと

強制 乗車前の「日常点検」と「2ヵ月以内・1年ごとの定期点検」を必ず実行してください。（点検費用はお客様負担となります。[有償]）
使用していると各部のねじがゆるむことがあります。点検を怠ると故障や事故につながる恐れがあり大変危険です。定期点検以外でも異音や異常を感じたときはすみやかに点検を行ってください。

積載条件をこえる荷物を積まない

禁止 接触やバランスを崩し転倒によるけがの恐れがあります。

● 積載条件の目安

重量 …… ・20インチ三輪自転車
前カゴ / 約2Kg 後カゴ / 約13kg
・18インチ以下三輪自転車
前カゴ / 約1.5Kg 後カゴ / 約12.5kg

荷物の大きさ …… カゴに収まる大きさ
(視界を妨げない高さ)

- ※荷台は後付けできません。
- ※定められた積載条件以上の荷物は積まないでください。
- ※荷物を積載すると安定性が損なわれ、操作性や制動性が変わります。不安を感じた場合は荷物を減らしましょう。
- ※荷物は確実に固定してください。ひもやベルトを使用して荷物を固定する場合はゆるまないように注意してください。ゆるんだひもやベルトが車輪に巻き込まれると大変危険です。
- ※荷物の運搬に荷台及びカゴ以外は使用しないでください。

消耗部品は下記を目安に交換する

強制 ブレーキワイヤー：2年に1回
ブレーキシュー：溝が1mm以下になる前
タイヤ：接地面の溝が無くなる前
チェーン：錆などで動きが悪くなったとき

サドルやハンドルは引き上げ限界線より上に上げた状態で乗らない

サドルやハンドルが外れたり折れたりして、転倒によるけがの恐れがあります。サドルポストおよびハンドルポストの限界線(MAX)が見えた状態で乗ってはいけません。



改造や分解はしない

禁止 部品が外れたり、壊れたりして転倒し、けがをする恐れがあります。歩行者に危害を及ぼす恐れがある突出物などを装着してはいけません。

強制 修理や部品の取り付けは自転車店にご相談ください。

カゴに人やペットは乗せない

禁止 バランスを崩し転倒によるけがの恐れがあります。絶対に乗せないでください。



警告事項（自転車）



スポークの間に固形物（ボール等）を入れて走らない

固形物が移動し、ブレーキやダイナモに接触し転倒する恐れがあります。



グリップ（ニギリ部）がゆるんでいるときは乗らない

グリップ（ニギリ部）の弾性が低下し回るものは、ハンドルから抜ける恐れがあり大変危険です。自転車店ですぐに取り換えてください。



スピードを出しすぎない

スピードを出しすぎるとハンドル操作が難しくなります。ブレーキも利かなくなり、事故をまねく恐れがあり危険です。



濡れた道や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが利きにくく制動距離が長くなります。スリップしやすいため、思わぬ事故や転倒によるけがの恐れがあります。



ハンドルから手を離さない

（手放し運転や傘をさしての運転、携帯電話の使用など）バランスを崩して転倒によるけがの恐れがあります。また、危険を回避するための急な操作ができず、事故をまねく恐れがあります。片手運転は絶対に禁止です。



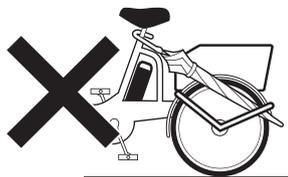
外部の音を遮断した状態で乗らない

イヤホンやヘッドホンを装着した状態での使用は、周囲の状況把握ができず注意力が低下し、事故をまねく恐れがあります。



傘やステッキ、釣竿などを車体に差し込んだり、吊り下げたりしない

車輪に巻き込んだり、人や物にぶつけて転倒や事故によるけがの恐れがあります。



車輪、ギア、チェーンなど回転しているところに手を触れない、触れさせない

車輪に巻き込まれたり、はさまれたりしてけがをする恐れがあります。



走りながらライトの操作をしない

転倒しけがをする恐れがあります。

必ず停止してからライトの操作をしてください。



ハンドルの形を変えない

ハンドルを極端に上向きや前向きにして乗ると、乗車姿勢が不自然なため走行が不安定となり、転倒しけがをする恐れがあります。



リフレクターが汚れていたり破損したままの状態に乗らない

テールランプおよびリフレクターは、後続の車両から確認をするうえで大変重要です。汚れや損傷、故障の場合には直ちに修理をしてください。



リムに著しい摩耗や傷があるときは乗らない

リムの破損または強度低下による転倒の危険があります。交換は販売店もしくはお近くの自転車専門店にご相談ください。



車輪の脱着やサドルの調整後は、締め付けを確認しないまま乗らない

車輪やサドルが外れて転倒によるけがの恐れがあります。必ず乗る前に確認してください。

●車輪について

! 自転車を持ち上げて車輪を上から強く叩き、車輪がずれたりガタついたりせず、前フォークやフレームにしっかり固定されていることを確認してください。

●サドルについて

! 上下左右および前後にガタつきや動きがないこと、フレームにまっすぐ取り付けられていることを確認してください。サドルの前後を持って上下左右に力を加えたときに動きがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。



視界が悪いときは乗らずに押して歩く

見通しが悪いと衝突や転倒の恐れがあります。乗らずに押すようにしましょう。



踏み台代わりなど走行以外の用途で使わない

転倒によるけがの恐れがあります。



警告事項（自転車）



凹凸の激しいところを走らない (歩道の段差や溝、階段など)

フレームや車輪の損傷、転倒によるけがの恐れがあります。

●軌道敷では

原則として進入禁止です。もし入るときには、軌道敷のすき間にタイヤを挟まないよう十分注意してください。危ないと思ったら、降りて押して通ってください。

●山路、ジャリ道では

ハンドルがとられ、ふらつきやすいうえ、スリップしたり、タイヤ、リムを損傷する恐れがあります。無理に乗らず、降りて押しましょう。



二人乗りやアクロバティックな乗り方はしない

立ちこぎ等、アクロバティックな乗り方は転倒や落車によるけがの恐れがあります。また、二人乗りは法律で禁止されており大変危険です。絶対にやめましょう。



運動機能が低下するものを飲んだときは乗らない

衝突や転倒によるけがの恐れがあります。疲れているときや薬を服用したときは乗らないでください。病気やけがをしている人は乗らないでください。体が不自由な人は十分ご注意ください。メガネを常用している人は必ずメガネをかけてください。



ながら運転をしない

携帯電話・スマートフォン等を使用しながらの運転はしてはいけません。事故につながる恐れがあり大変危険です。罰則の対象になります。



酒気帯び運転をしない

飲酒をしたときは運転をしてはいけません。事故につながる恐れがあり大変危険です。罰則の対象になります。



幼児を乗せない

幼児用座席の取り付けはできません。また、荷物を後付けすることもできません。



手やハンドルに荷物を下げたりペットをつないだりしない

バランスを崩して転倒する恐れがあります。



荷物はカゴに積んでください。



山岳・河川などでは絶対に使用しない

ハンドルやフレームなどが折損したり、ブレーキが利かなくなったりして、転倒によるけがをします。



視界が悪いときは無灯火で乗らない (夜間や霧、トンネル内などのとき)



ヘッドライトが標準装備されていない機種には、別売のヘッドライトを必ず装着してください。ライトが点かないときは押して歩いてください。

夜の無灯火での走行は交通違反です。

夜間や霧、トンネル内など視界が悪いときは必ずヘッドライトを点灯してください。ヘッドライトの明かりは、路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすくする効果があります。走行中にライトの電球がきれたときには、新しいものと交換してご使用ください。電球は必ずライトの仕様にあわせてご使用ください。



坂道で駐停車をしない

坂道で駐停車をすると思わぬ事故が発生する恐れがあります。



平坦で安全な路面に駐停車してください。



ブレーキの制動面に注油しない

ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがの恐れがあります。



異常があるときは乗らない

点検しないで異常があるまま走行すると、部品が破損したり転倒によるけがの恐れがあります。



異常を確認したら自転車店にご相談ください。変形、ひび割れ等、異常のある部品は必ず交換してください。曲がり直しての再使用は破損の原因になります。絶対にしないでください。前フォークは衝突したときに曲がることでショックを吸収し、乗員のケガを防止する役目をもっています。



乗車するときはヘルメットを着用する

安全のために自転車用ヘルメットを着用してください。



対人・対物賠償保険の加入

自転車による事故でも自転車は道路交通法上で軽車両と位置づけられているため、賠償額の計算方法は自動車による事故と変わりません。万一に備えて保険に加入しましょう。保険への加入を義務付けている自治体が増えています。ご使用先の自治体にご確認ください。



注意事項（自転車）



カーブではスピードを出さない

カーブでは見通しがききません。曲がりきれずに思わぬ事故をまねきます。必ず手前で十分な減速をしましょう。

カーブではブレーキ操作に注意

横すべりをおこし転倒する危険があります。スピードを落として走りましょう。

●坂道では

下り坂でのスピードの出しすぎは禁物。上り坂ではハンドルがふらつきやすいことを考慮し、無理に乗り降りして押しましょう。



カーブで曲がる側のペダルを下にしない

コーナリング中はペダルを止めてください。傾斜したとき、路上の凸部にペダルがあたることがあり危険です。カーブする側のペダルを上にするか、左右水平にしてください。



片側ブレーキはかけない

バランスを崩して転倒し、けがをする恐れがあります。とくに前ブレーキだけをかけると、車輪がロックして自転車が前方に転倒する恐れがあり大変危険です。走行中は常にブレーキレバーをすぐ握れるようにして、ブレーキは前後ともかけてください。

右ブレーキレバー操作：前ブレーキが動作

左ブレーキレバー操作：後ブレーキが動作



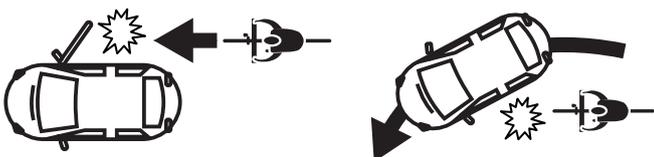
急ブレーキはかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する恐れがあります。前方に注意して安全に走行してください。



自動車の横を走り抜けるときはスピードを出さない

停止中の車に注意しましょう。車のドアが急に開き衝突する危険があります。スピードを落とし、十分距離をとって通過しましょう。また、後方から接近する車にも注意しましょう。



乗るときは巻き込まれやすい服装や荷物を避ける（長いスカートやマフラー、傘など）

車輪やギアに巻き込んで転倒によるけがの恐れがあります。着物や裾の長いスカートなど、動きにくい服装はおやめください。肌を露出する服装では乗らないでください。転倒したり、ぶつかったりしたときにけがをする恐れがあります。



すべりやすい所では乗らない

雪道や凍結した道、工事用の鉄板の上などでは、スリップして転倒によるけがの恐れがあります。避けて通るか、押して歩いてください。

●砂・小石 舗装道路の砂や小石はスリップをまねきます。急ブレーキ、急旋回は厳禁です。

●ドブ 市街地走行では溝に注意。思わぬところでドブにはまる危険があります。

●鉄板道路 工事中の鉄板道路では、隙間やスリップに注意してください。とくに雨の日はスリップしやすく危険です。走り慣れない道を走るときは、いつもより注意が必要です。

●雪 雪の日には乗らずに、降りて押して歩いてください。また、冬は晴れた日でも日影の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので注意が必要です。



すべりやすい靴やハイヒールをはいて乗らない

足がペダルから外れて転倒する恐れがあります。素足、ゲタ、サンダル、かかとの高い靴でのご乗車はおやめください。動きやすい履物をお選びください。安全確保のために走行中はヘルメットを必ず着用してください。なお、風などで飛ばないようにしっかりと留めてください。



雨、強風のとき

●雨のとき 服装（雨具）を整える。傘を持つての片手運転は絶対におやめください。雨ガッパやレインコートを着るときは、裾が引っかからないように必ずセイフティバンド、輪ゴム、クリップなどで留めてください。また、雨の日はブレーキが利きにくく制動距離が長くなりスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

●強風のとき ハンドルがふらつきやすく、安全に運転できません。降りて押して歩きましょう。



駐輪について

駐輪するときは他の人の迷惑にならないように、決められた場所にとめましょう。自転車の放置は禁止です。自転車の放置は地域環境の悪化になります。自転車との接触事故等の危険性もあり大変危険です。自転車から離れるときは盗難防止のために必ずカギをかけましょう。



注意事項（バッテリー、充電器）



他の製品にバッテリーを使用しない

強 制 ご購入いただいた自転車専用のバッテリーです。他の機種、機器、用途に使用しないでください。異常発熱、液漏れ、破裂、発火の原因になります。



専用の充電器を使用する

強 制 バッテリーを充電する場合は、付属している専用の充電器を使用してください。他の充電器を使用すると異常発熱、故障、破裂、発火の恐れがあります。



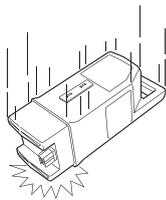
バッテリー液が付着したときは直ちに洗い流す

強 制 バッテリー液が衣類や皮膚に付着したときは、きれいな水で直ちに洗い流してください。目に入ったときは、こすらずきれいな水で十分洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。失明の恐れがあります。



バッテリーを落としたり、衝撃を与えたりしない

禁 止 ケースの破損、液漏れ、異常発熱、破裂、発火の原因になります。



バッテリーと充電器を分解、改造してはいけない

禁 止 故障、液漏れ、異常発熱、破裂、発火の原因になります。



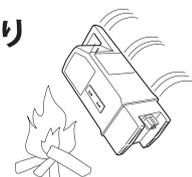
バッテリーの端子間を金属などで接触させない

禁 止 感電、液漏れ、異常発熱、破裂、発火の原因になります。



バッテリーを火中に入れたり加熱したりしない

禁 止 液漏れ、異常発熱、破裂、発火の原因になります。



損傷したバッテリー、充電器は使用しない

禁 止 液漏れ、異常発熱、破裂、発火の原因になります。



火の近くや高温になる場所で充電、使用、保管はしない

禁 止 液漏れ、異常発熱、破裂、発火の原因になります。



野外では充電しない

禁 止 35℃以上、湿度の高い環境、直射日光のあたる場所では充電しないこと。異常発熱を起す危険があります。



充電中の発熱に注意する

強 制 充電中は充電器本体の温度が40～70℃まで上昇します。同じ箇所を長時間触れていると低温やけどをする恐れがあります。



電源プラグは根元まで差し込む

強 制 不完全な差し込みだと、感電、発熱による火災の原因になります。充電時以外はコンセントの接続を外してください。



電源プラグに埃などが付着しないよう注意する

強 制 電源プラグや充電端子に埃や油、水などが付着すると感電や発火の原因になります。



電源プラグを抜くときは必ず先端のプラグをもって抜く

強 制 コードを引っ張って抜くと、断線による感電、発熱、発火の原因になります。



濡れた手で電源プラグを触らない

禁 止 感電する恐れがあります。



延長コードの使用、他の電気器具とのタコ足配線はしない

禁 止 感電、異常発熱、発火の恐れがあります。



幼児やペットなどが触れる可能性があるところでは充電しない

禁 止 感電やけがをする恐れがあります。



充電中は充電器とバッテリーの間隔を5 cm以上あけ、物や衣類などを乗せない、被せない。

禁 止 空気循環が悪くなると異常発熱、発火の原因になります。



充電器本体に電源コードを巻きつけて保管しない

禁 止 故障、断線による異常発熱、発火の原因になります。

各部の組み立てと調整

こちらから
動画でもご確認ください

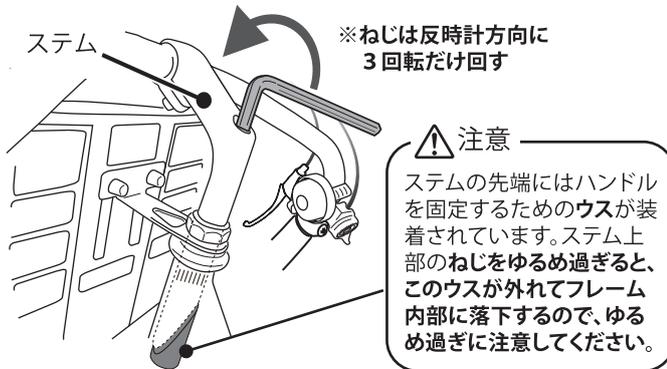


● 箱から出すときの注意点

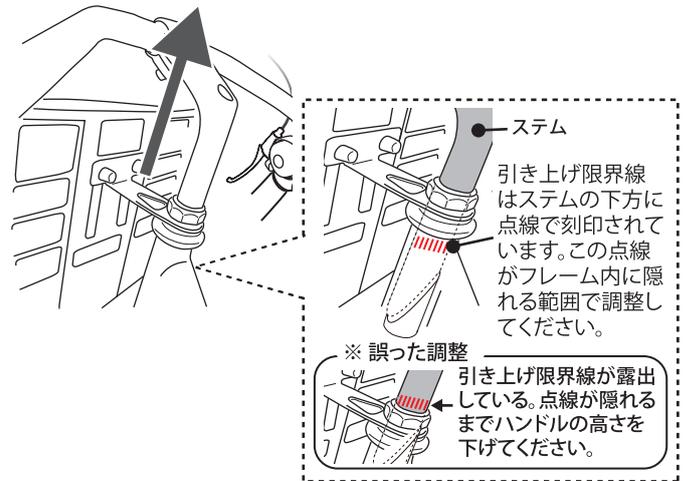
箱を開けるときは、ホッチキスに気をつけてください。自転車を箱から取り出す前にホッチキスの針を外してください。けがや衣類に引っ掛かり衣類を破く恐れがあります。
(自転車を組み立てた後に商品に問題が無いことを確認してから箱を処分してください。)

ハンドルの高さとおきの調整

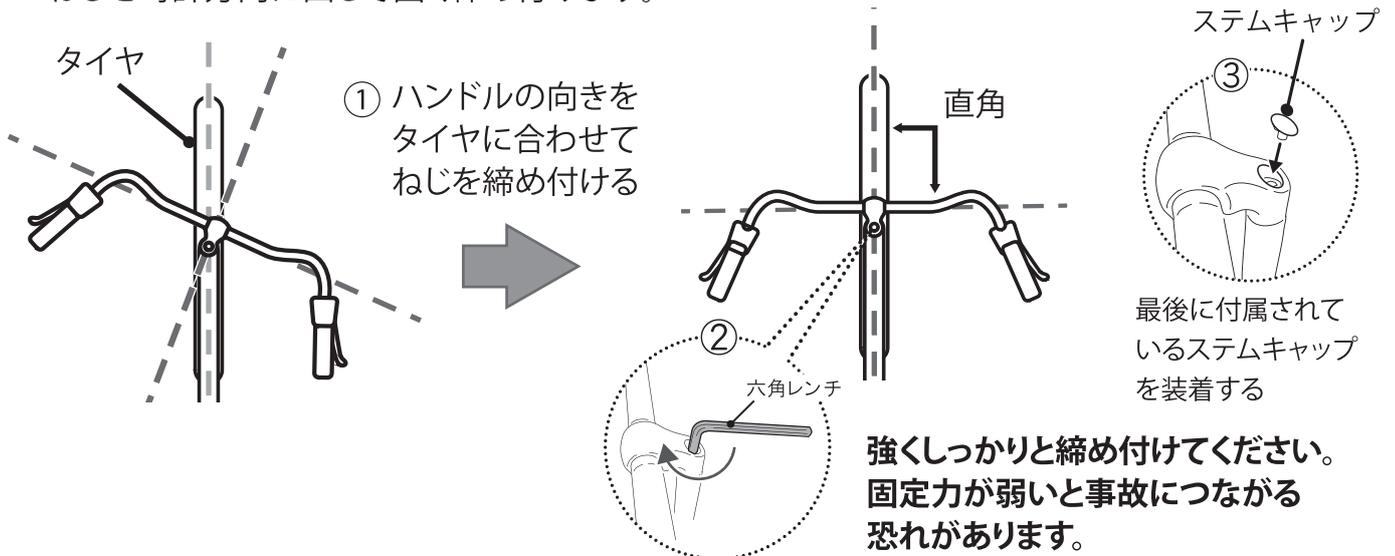
- 1 ステム上部のねじを反時計方向に**3回転**だけ回してゆるめます。
※ねじをゆるめすぎると内部に装着されている部品(ウス)が外れてしまい、ハンドルを固定できなくなります。ゆるめ過ぎないように注意してください。



- 2 ステムを上下させてお好みの高さに調整してください。
※このとき引き上げ限界線が隠れる範囲で調整してください。



- 3 調整した高さを保ちながらハンドルとタイヤの向きを合わせます。タイヤとハンドルの横棒(ハンドルバー)が直角(90度)になるように調整して、ハンドル上部のねじを時計方向に回して固く締め付けます。



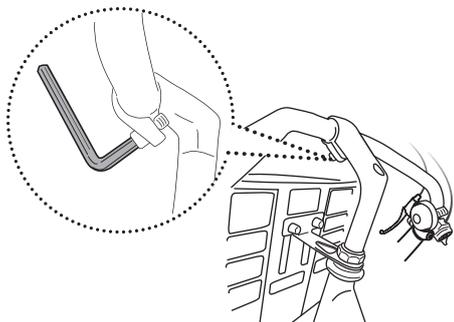
～ 確認事項 ～

- 配線はねじれていませんか。
- ハンドルの高さは適正ですか。(低すぎない高すぎない)
- 引き上げ限界線は隠れていますか。
- ねじは確実に締め付け固定されていますか。

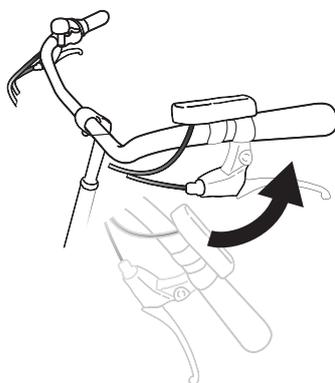
次のページにつづく >>

ハンドルを起こし上げて角度を調整

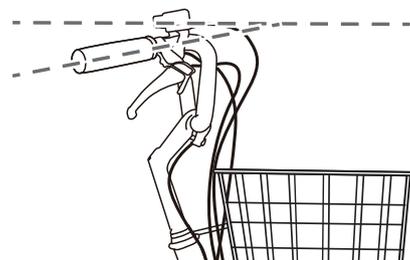
- ① ハンドル裏のねじを反時計方向に回してゆるめます。



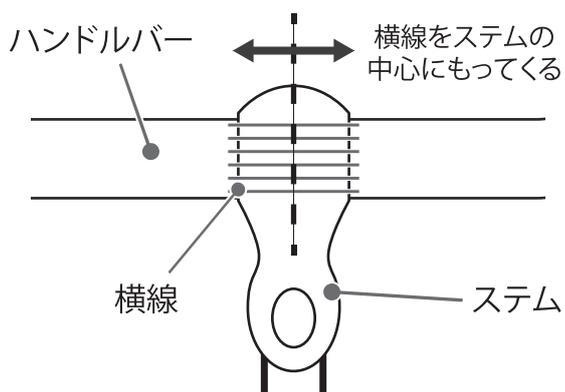
- ② 倒れているハンドルを起こし上げます。



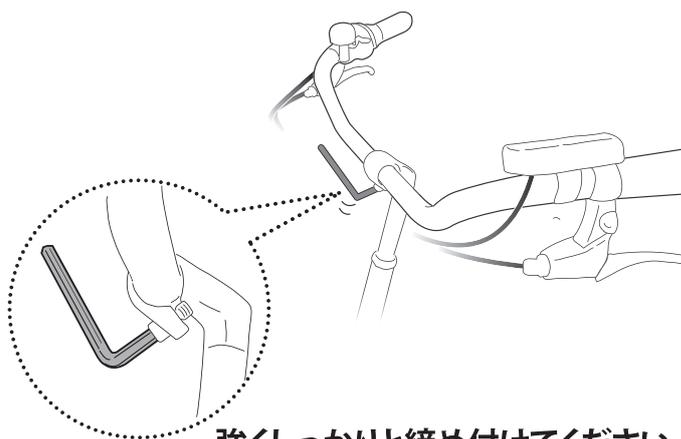
- ③ ハンドルの角度は水平より少し下向きに設定するのが目安です。好みによって乗車しやすい角度に微調整してください。



- ④ ハンドルバーには固定位置の目安となる横線が印されています。ハンドルの角度を調整したときに、この横線がステムの中心にくるように調整してください。
※横線が左右どちらかに片寄らないこと



- ⑤ 角度と位置を調整したらハンドル裏のねじを時計方向に回して固く締め付けます。



強くしっかりと締め付けてください。固定力が弱いと事故につながる恐れがあります。

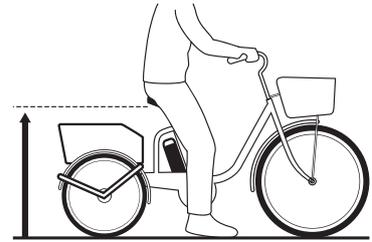
～ 確認事項 ～

- 配線はねじれていませんか。
- ハンドルバーの中心で固定していますか。(ハンドルバーに印されている横線がずれていないこと)
- ハンドルの角度は適正ですか。(下げすぎない上げすぎない)
- ねじは確実に締め付け固定されていますか。

 警告	各部の固定を適正に行わないで使用されると、事故につながる恐れがあります。点検をしていない自転車には乗車しないでください。
 注意	ハンドルに“ガタつき”や“ふらつき”、その他異常を確認した場合は、直ちに使用をやめて、自転車店などにご相談ください。
 強制	組み立て後は、自転車店などで必ず初期点検を行ってください。点検を怠った場合、品質保証を受けられない場合があります。

サドルの高さ調整

両足がしっかりと地面に着く高さに調整してご乗車ください。
両足が地面に着かない高さでご乗車された場合、万一バランスを崩したときなどに転倒して、けがをする恐れがあります。



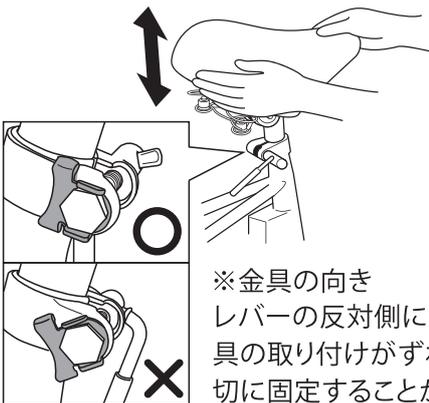
- 1 固定レバーを反時計回りに2～3回転させ、固定をゆるめます。



注意 固定を十分にゆるめないで高さを調整すると、シートポストを傷つけることがあります。



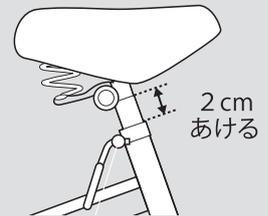
- 2 サドルを上下に動かして高さを調整し、調整後はレバーを時計回りに回して締め付け固定します。



※金具の向き
レバーの反対側についている金具の取り付けがずれていると適切に固定することができません。



注意 サドルの高さを最も低くする場合でも、サドルの付け根から2 cmほどの位置で固定してください。



警告 引き上げ限界線以上に高くしないでください。引き上げ限界線がフレームに隠れる位置で調整してください。



- 3 締め付け固定をしたあとは、乗車したときに足に引っかからないように、サドル固定レバーをフレームに沿うように倒してください。

- 4 サドルをもって上下左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。



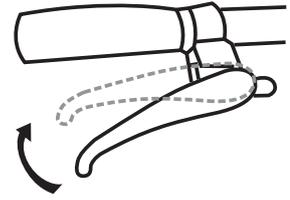
注意 乗車するときは毎回、サドルを上下左右に動かし確実に固定されていることを確認してください。ガタつき、ゆるみがある場合は、再度締め付けを行ってください。

各部の操作

ブレーキ操作

ブレーキは安全に乗るためにいちばん大切なものです。乗車前にブレーキレバーを握って、確実に利くことを必ず確認してください。調整が必要な場合は21ページをご参照ください。

- 右ブレーキレバー ⇒ 前ブレーキが動作
- 左ブレーキレバー ⇒ 後ブレーキが動作

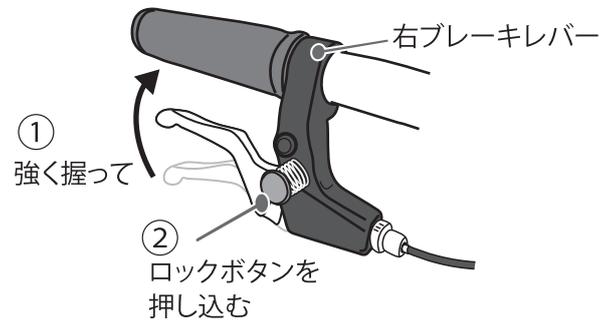


パーキングロック機能

パーキングロック機能を使用することで、駐輪時に自転車が勝手に動くことを防ぎます。傾斜している場所に駐輪するときにご使用ください。

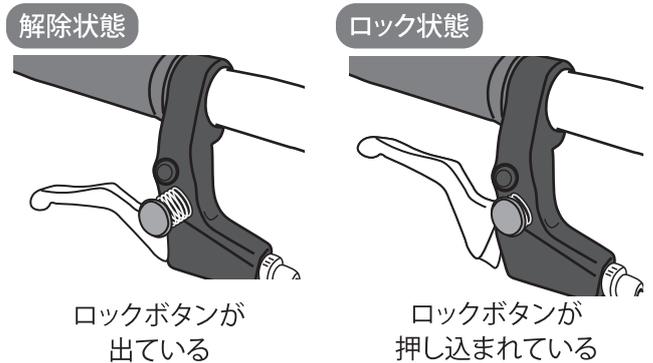
●ロックの操作方法

右のブレーキレバーにロックボタンがついています。右のブレーキレバーを強く握りながらロックボタンを押し込んでください。ロックボタンが押し込まれると前ブレーキがかかった状態（パーキングロック）になります。



●ロックの解除方法

右のブレーキレバーを強く握ってください。ロックが解除され、押し込まれていたロックボタンが突出します。



! 乗車するときは必ずパーキングロックを解除してください。解除しないでペダルを注意踏み込むと予期しない動作を引き起こし、けがをする恐れがあります。

※ブレーキワイヤーが伸びてブレーキレバーの引きしろが大きくなると、パーキングロック機能が働かなくなります。ブレーキの調整をしていただくか(21ページ参照)、お近くの自転車店にご相談ください。

自転車の施錠

盗難防止のために、自転車から離れるときは必ず施錠してください。スペアキーは紛失しないよう保管してください。キーに刻印されている番号を控えておいてください。新たにスペアキーを購入するときに必要なになります。

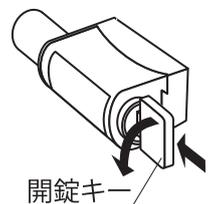
閉め方

差し込んである開錠キーを右にひねりながらカンヌキごと押し込みます。奥まで押し込んだら、再び右にひねり開錠キーを抜き取ります。



開け方

開錠キーをカギ穴に差し込み、少し押しながら左にひねるとカンヌキが飛びだし、開錠されます。



スイング機能

ハンドルの右側についているスイングレバーで、車体フレームのスイング機能を切り替えることができます。

- レバーを奥に押し込むと **走行時**
→フレームが左右にスイング
- レバーを手前に引くと **駐輪時**
→フレームが固定されスイング機能は働きません



強制

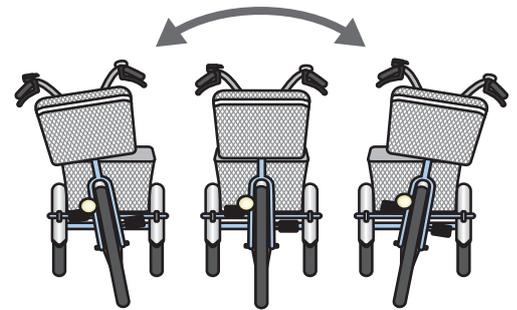
切り替えをするときは、必ず平坦な路面に停車した状態で操作を行ってください。走行中に操作すると、バランスを崩し転倒する恐れがあります。部品の破損や重大な事故の原因になります。

- 走行するときは必ず **走行時** に切り替えてください。

フレームが左右にスイングするようになり、カーブも大回りせずスムーズに曲がることができます。

※このスイング機能は三輪自転車の特有の機能です。

バランスをとって乗車する必要があり、はじめはスイングの揺れに慣れるまで時間を要することがあります。バランスがとれるようになるまで、公道ではない公園など安全な広い場所で練習してください。



強制

走行するときは必ず『走行時』に切り替えてください。
走行中、カーブを曲がる時には必要以上に車体を左右に傾けないでください。
スイングの揺れに慣れるまで十分に練習してからご使用ください。

- 自転車から降りて駐輪するときは **駐輪時** に切り替えることをおすすめします。

前カゴに荷物などを載せているとき、自転車がふらついたり転倒したりすることを防ぐことができます。

※構造上、『駐輪時』の固定状態にしても多少のあそびはあります。

※車輪が固定されるわけではありません。パーキングロック、前輪施錠もあわせてご使用ください。



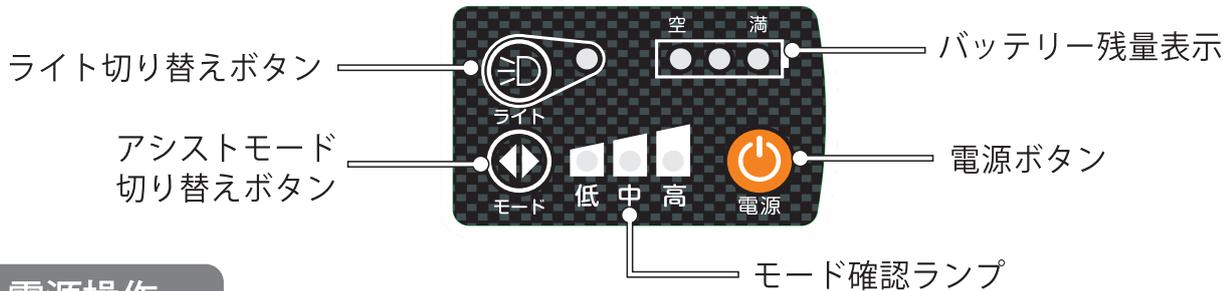
強制

『駐輪時』の状態で行くと、路面や傾斜などの影響を受けやすくなり、ハンドル操作や走行性能が悪くなります。思わぬ事故やけが、部品破損の原因になることがあります。走行するときは、必ず『走行時』に切り替えてご使用ください。

電動アシスト機能の操作

ハンドルの左側についているコントロールパネルで各操作を行うことができます。

コントロールパネル 表示説明



電源操作

電源ボタン（オン/オフスイッチ）を押すと、電源が入りランプが点灯します。

※電源を入れるときはペダルを踏まないでください。起動時はバッテリー残量ランプとモード確認ランプが点滅し、2秒後に点灯に切り替わります。ランプが点滅している間はトルクセンサーの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。

※自転車を4分間以上動かさなかった場合は、自動で電源が切れる仕様となっています。



強制

電源を入れるときはペダルを踏まないでください。ペダルを踏んだ状態で電源を入れると、突如としてモーターが動きバランスを崩して事故やけがにつながる恐れがあります。電源が入ったことを確認してからペダルに足を乗せましょう。

アシストモードの切り替え

アシストモード切り替えボタンを押すことで、アシスト力を変更することができます。走行する道路状況に応じてモードの切り替えを行っていただくことで、より快適にご使用いただけます。

低モード	「アシスト力」を抑え、効率良く走りたいときにおすすめ ペダルを踏む力が少ないときなどに、アシスト力を抑えた節電走行
中モード	平地を中心に一定のアシスト力で走りたいときにおすすめ 広範囲にお使いいただける標準的なアシストモード
高モード	坂道など力強いアシスト力で走りたいときにおすすめ 上り坂など力強いアシスト力が必要なときは、より楽に走行できますが 電力の消費量は多くなり走行距離は短くなります。

ライトのつけ消し

ライト切り替えボタンを押すことで、ライトのつけ消しができます。
ライトを点灯しているときは、ボタン右横のランプが赤く点灯します。

●ライトの照射角度について

自転車の前方約10m先の路面を照らすように角度を調整してください。



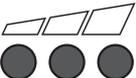
注意 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。走行中にバッテリーの残量が無くなると、ライトも消灯します。

バッテリーの残量表示

バッテリーの残量はコントロールパネルとバッテリー本体のどちらでも確認することができます。

コントロールパネルでの確認

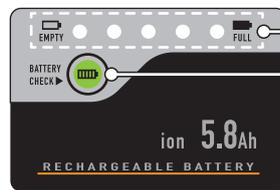
コントロールパネルでは、下表のように3つのランプでバッテリー残量の目安を表示します。お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、アシスト走行できる距離の目安としてください。

残量ランプ表示	バッテリー残量	目安
	3つのランプが点灯 51～100%	アシスト走行が十分に可能です
	2つのランプが点灯 26～50%	走行状況によって アシスト力が弱くなります
	1つのランプが点灯 10～25%	充電してください
	ランプが点滅 0～9%	アシスト走行はできません

残量表示ランプが消灯していく間隔は、バッテリーの状態、走りかた、道路状況などにより異なります。走行中に残量表示ランプが減り、停止中に点灯表示が戻るがありますが、故障ではありません。

バッテリー本体での確認

バッテリー本体では、下表のように5つのランプでバッテリー残量の目安を表示します。



バッテリー残量表示

バッテリー残量確認ボタン

残量確認ボタンを押しているあいだ、ランプが点灯して残量を確認することができます。

残量ランプ表示	バッテリー残量	目安
	緑のランプが4つ点灯 71～100%	アシスト走行が十分に可能です
	緑のランプが3つ点灯 46～70%	
	緑のランプが2つ点灯 26～45%	そろそろ充電してください アシスト力が徐々に低下する場合があります
	緑のランプが1つ点灯 10～25%	充電してください アシスト力の低下、動作が不安定になることがあります。 また走行環境によっては、電源が切れることがあります。
	赤ランプが点灯 0～9%	充電してください アシスト走行はできません

- ・残量表示はあくまでも目安です。走行環境、バッテリーの劣化状況によって走行距離は変わります。
- ・バッテリーは自然放電します。リチウムイオンバッテリーは継ぎ足し充電をしても劣化は促進されません。残量ランプが点灯していても低残量のまま放置せず、緑ランプ2点灯を目安に充電してから保管することをおすすめします。

バッテリーの取り扱い

バッテリーの充電

※自転車に付属しているバッテリーと充電器を必ずセットでご使用ください。

●はじめに、充電する場所(下記の条件をみたま)を決めます。

- ・ 風通しがよく湿気の少ないところ。
- ・ 直射日光や雨つゆのあたらないところ。
- ・ 水がかからないところ。
- ・ 平坦で安定のよいところ。
- ・ 周囲温度が0~30℃のところ。
- ・ 幼児やペットの手が届かないところ。



- ・ 必ず屋内で充電してください。野外では充電しないでください。
- ・ 直射日光があたる、室温が35℃以上、湿度の高い場所では充電しないでください。
- ・ テレビやラジオの近くで充電しないでください。雑音が入ることがあります。

①バッテリーと充電器を接続する

充電プラグをバッテリーに接続します。充電プラグ差入口はバッテリー本体の底面にあります。底面のスライドカバーを矢印の方向にスライドさせて、充電プラグをバッテリーの充電端子にしっかり奥まで差し込みます。

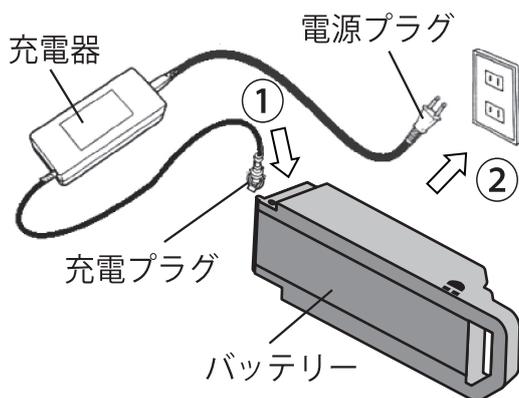
②充電器の電源プラグをコンセントに差し込む

※バッテリーと充電器を接続した後に行ってください。

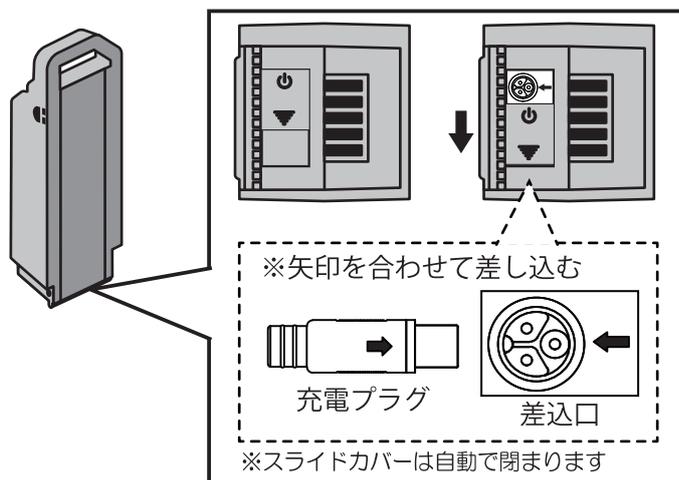
充電器本体のランプが緑色に点灯したあと、赤色の点灯に切り替わります。点灯色が切り替わるのに5秒ほどかかることがあります。必ず点灯色が切り替わったことを確認してください。

充電器本体のランプが異常点滅している場合は、充電器をコンセントから抜いて、上記の手順で再度接続してください。再度接続してもランプが異常点滅を繰り返す場合は、ご使用中を中止しサポートセンターまでお問い合わせください。

接続順序



充電プラグ差入口



- ・ 他社製の充電器は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- ・ 充電をする前に、差入口が濡れていないこと、汚れがついていないことを必ず確認してください。
- 不安定なところで充電しないでください。
- 強制
- ・ 充電プラグと電源プラグは、確実に奥までしっかり差し込んでください。
- ・ 充電器とバッテリーは5cm以上の間隔をあけて置き、覆い等で空気循環を妨げないでください。
- ・ 充電時以外はコンセントの接続を解除してください。

充電器ランプ表示

緑ランプ点灯	待機状態 / 充電完了
赤ランプ点灯	充電中
その他点滅	異常検知

充電時間の目安

バッテリー容量	充電時間
5.8 Ah	約3時30分

※充電器本体のランプが異常点滅している場合は、充電器をコンセントから抜いて、説明の手順で再度接続してください。再度接続してもランプが異常点滅を繰り返す場合は、ご使用を中止しサポートセンターまでお問い合わせください。

※異常点滅の詳細は充電器本体裏面の注意シールをご確認ください。

※充電完了後は充電器とコンセントの接続を解除してください。

※上記の充電時間は、バッテリー本体の残量表示ランプが1つになってから充電したときの時間です。

※充電時間はバッテリーの状態や充電環境温度などにより変わります。

※ご購入後はじめての充電では充電時間が多少長くなる場合があります。

※充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

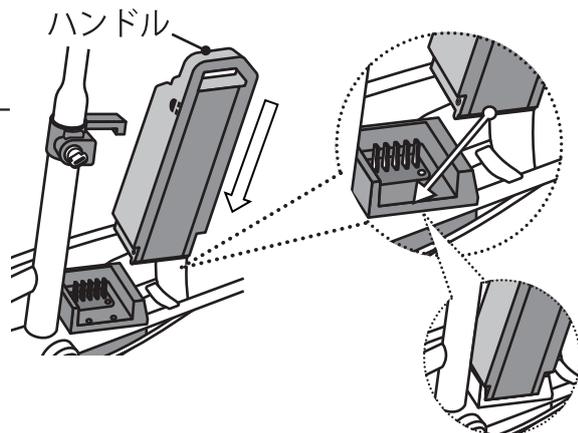
自転車への取り付け

こちらから
動画でもご確認いただけます

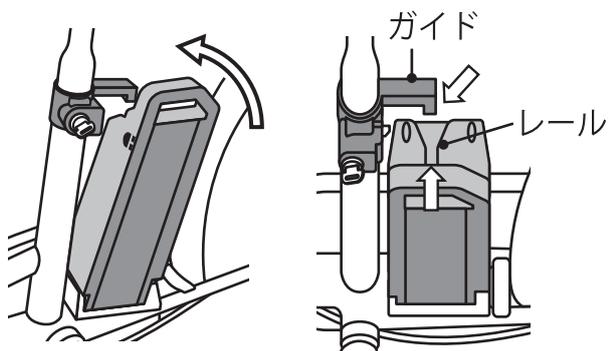


※自転車の受け側に異物、汚れがないか、濡れていないかを確認してください。

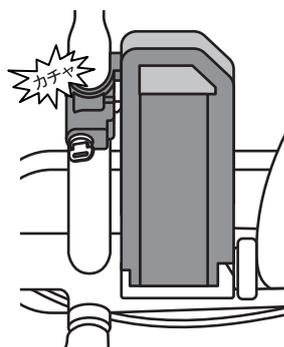
- ① バッテリー上部のハンドルを持って、バッテリー底面の手前角と受け側のふちを合わせるようにバッテリーを斜めに差し込みます。



- ② バッテリーを車体側に起こし上げていきます。このとき、バッテリー側のレール(くぼみ)と車体に取り付けられているガイドを合わせるようにします。

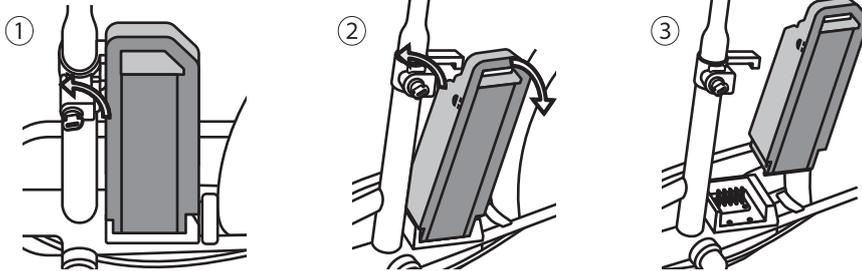


- ③ 奥までバッテリーを起こし上げると自動的にカギがかかります。しっかり固定されていることを確認してください。



自転車からの取り外し

- ① ハンドルを持って、開錠キーをカギ穴に差し込み反時計回りに90度回します。
- ② 開錠キーを回したまま、ハンドルを手前に引いてバッテリーを倒します。
- ③ そのまま上に引き抜くように自転車から取り外します。
- ④ 開錠キーを忘れずに抜いて保管してください。



注意

- 必ずハンドルを持って取り付け、取り外しを行ってください。
- バッテリーをささえずに開錠キーを回すとバッテリーが落下し破損、けがをすることがあります。

バッテリーの特性

- 冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなる、アシスト力の低下、アシストが不安定になる等の症状がでることがあります。バッテリーを温度15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。
- バッテリーは自然放電します。長期間使用されずに残量がなくなったとき、1年間充電されなかったときは保護回路がはたらき電源が入らなくなります。使用していなくても定期的に充電してください。リチウムイオンバッテリーは継ぎ足し充電をしても劣化は促進されません。低残量のまま放置せず、緑ランプが2点灯を目安に充電してください。

バッテリーの保管

長期間(1ヵ月以上)保管されるときは自転車からバッテリーを外し、70%程度まで充電して、高温にならない涼しい室内で保管してください。3ヵ月毎に充電残量を確認して必要であれば10%ほど補充電してください。**1年間充電しないと保護回路がはたらき使用できなくなります。**

バッテリーの買い替え目安

バッテリーの買い替え時期の目安として、約700回の充電の繰り返しで交換時期に至る場合が多いですが、充電回数が700回未満の場合でもご使用頻度や保管の条件等により、1～2年程度の使用期間で一充電あたりの走行距離が著しく短く(新品時の約半分以下)なる場合があります。

※ペダルを強く踏み込んで走行する機会が多かったり、高温になる場所でバッテリーを保管すると、通常より少ない充電回数であっても短い期間で劣化し寿命となる場合があります。

※バッテリーは消耗品です。『バッテリーの買い替え目安』と保証期間は関係ありません。

別売品(交換品のご購入)

お使いのバッテリーに記載されている型番をお控えのうえ、ご購入店またはサポートセンターまでお問い合わせください。※必ず純正品をお求めください。他社製品のバッテリー、充電器を使用すると、発熱、発火の恐れがあります。

バッテリーの廃棄

この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。バッテリーが不要になった場合は、ご購入店またはサポートセンターまでご相談ください。電池のリサイクルにご協力をお願いいたします。



Li-ion 20